

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.11

白 HAKUA 亜

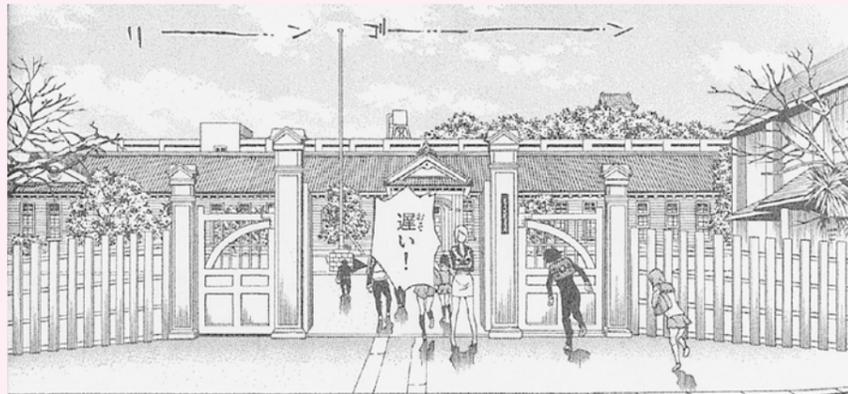
事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
<http://www.ict.ne.jp/~hakua/>
E-mail：hakua@ict.ne.jp

明治校舎の素顔

「HAKUAホール」誕生

上野高校の明治校舎の西端の教室が、今秋から多目的に活用できるように改装された。この教室は、創立百周年を機会に旧時代の机を復元して一般市民への開放講座の会場などに利用されていた。ここに同窓会と県の支援を得て、書画展示用レールや照明設備、空調設備を設置。また、閉校した上野商業高校からグランドピアノも譲り受けた。在校生や同窓会員が美術などの個展、ミニコンサート、各種講座の会場として使えるようになった。また、同窓生から学校へ寄贈を受けた書画を常設展示しており、同窓生が母校を訪ねた時のサロンとしても活用できる。

明治校舎がコミックに登場



▲田中ほさな「時坂さんは僕と地球に敵しすぎる」の1コマ。(作者の承諾を得て掲載)

上野高校明治校舎を綿密に描いたコマが幾つも折り込まれたコミックが発刊され話題になっている。作者は卒業生の田中ほさなさん(高41回)。作品名は『時坂さんは僕と地球に敵しすぎる』(小学館)で昨年、「月刊少年サンデー」に連載された。地方の高校が舞台で、未来の人類を救うため未来からやってきた女子高生が、主人公の少年を環境破壊に加担させるというストーリー。上野公園や、明らかにそことわかる町並みのコマも加わり、「ここは伊間市」という架空の地名からも作者の意図が楽しめる。

作者は、第35回小学館新人コミック大賞入選、作品に「ワイルドフラワーズ」、「暗号名はBF」、「乱飛乱外」など。今回の作品を「アクションあり、笑いあり、恋愛あり、SF(?)あり」で「説教くさくも難しくもなく、楽しい漫画になっていると思います」と自身のブログで紹介している。



◀完成間近なHAQUAホール

直筆の手紙や写真が並ぶ資料展示室▶

横光利一に出会う展示室

92年に明治校舎の正面玄関西側の一室が「同窓会文庫横光利一資料展示室」として整えられた。1916年(大5)、当時の第三中学校を卒業した作家の横光利一に関する資料が展示されている。

横光利一(1898-1947)は大正末期に川端康成とともに「新感覚派」の作家として文壇にデビュー。常に実験的な新しい文学を切り拓いて大正から昭和にかけて文壇を代表する作家として活躍した。

従来、横光の縁者、友人などから寄贈された直筆の書画、書簡、中学時代の日記や写真、西武美術館の「横光利一展」で作成された写真資料パネルなどが学校図書館の2階にある同窓会文庫に保存されていた。それらをまとめて常設展示することになった。横光文学の再評価が進んで、研究者や学生の県外からの見学者も多い。管理上、普段は閉室しているが、見学を希望する人は事前に上野高校へ申し込めば見学できる。

文化財の中で日常活動

明治校舎は、三重県立第三中学校(後に「上野中学校」と改称)の本館校舎として学校創立の翌年(1900年・明33)に建てられた。1948年に上野北高校(翌年、上野高校と改組)となり、長く校舎として使われてきたが、70年に鉄筋の教室棟を建てた時に、北側の2棟目が解体された。その後、正面の棟も建て替えの計画が出たが、建築史学会や同窓会から保存の声があり、81年には正門と併せて三重県指定文化財になった。この校舎は、同年に開校した二中(現・四日市高校)、四中(現・宇治山田高校)とともに同じデザインであったが現存しているのは上野だけ。

文化財指定と同時に新管理棟が完成して学校の機能は移転したことで、予備の教室や特別活動のために使用されることになった。現在は、生徒会、ギター・マンドリン部、新聞部などの部室、教育相談室、横光利一資料展示室などが入っている。

同窓会会長 左橋佳三



上野高等学校同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にて、母校の教訓であります「自強不息」の精神を受継ぎご活躍され、上高同窓会の存在価値の高揚にご努力いただいております。誠に、年会費のご納入にも積極的にご賛同いただいておりますこと大変有難く、同窓会報「白亜」の発行に際しまして、書面ではございますが厚くお礼申し上げます。

でもエネルギー問題は重要な事項であり、慎重に、そして一日も早く解決いただきたいと望むところでございます。

さて、同窓会の最近の動向でございますが、昨年本書面にてご紹介申し上げました同窓会サロン(HAKUAサロン)につきましては、漸く本年六月に完成いたしました。今後、皆様方にたいにご利用いただければ幸いです。また、横光利一先輩を偲んでの「雪解のつどい」、学校開放講座として「ふるさと伊賀再発見」と題した講座等、ご参加いただく方が年々増加しておりますこと、喜ばしく存じているところでございます。また、各支部様におかれましては、独自の会報を発行される等、会員相互の絆を強めていただく事業を積極的に展開いただいておりますこと、有難く存じます。

なお、会報発行に尽力頂きました方々に感謝いたしますと共に、会員の皆様方の一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。紙面の都合上、言葉足らずとなりました点ご容赦下さい。

ごあいさつ

学校長 土肥稔治



同窓会の皆様におかれましては、平素より母校の教育振興にご支援ご協力いただいておりますことと心よりお礼申し上げます。

私事になりますが、本年4月に前渡辺祐治校長に代わり松阪高校から転任して参りました。私自身、昭和48年3月卒業第24回生で、勤務とはいえ40年ぶりにくぐる母校の校門には感慨深いものがあり、久しぶりに見る白亜の明治校舎が当時と何も変わっていないことに、喜びとも郷愁ともつかない胸が締め付けられる気持ちになりました。

さて、視点を高校生に向けてみますと、グローバル化や情報化、少子化といった社会の変化に伴って高校生は多様化しつつあります。特に、昨年の東日本大震災を

経て、高校生の価値観や大学進学意識が大きく変化したといわれています。ある調査では「お互いに助け合って生きる」という大切さを強く感じた「社会に貢献したい」という気持ちが強まった。「大学で学ぶ目的について真剣に考えるようになった」などの回答があったということです。現在、上野高校には全日制880人、定時制60人の生徒が学んでいます。伊賀地区におきましても少子化の波は避けられず、全日制の1・2年生が7クラスになっていますが、一人ひとりの夢や希望を叶えることができるように、また、せっかく芽生えた社会に貢献したいという気持ちや学ぶ目的を真剣に考えたいという気持ちを大切に社会に送り出したいと考えています。

今後、保護者や生徒の皆さんの期待にこたえるべく、教育の質の向上を目指して教職員一同努力する所存でございます。同窓会の皆様におかれましては本校の教育活動に対しましては本校の教育支援を賜りますことをお願いいたします。ご挨拶に代えさせていただきます。

対談 三重県・伊賀・上高を語る

三重交通H.D.社長 岡本直之さん(高16回) V.S. 三重県副知事 植田 隆さん(高22回)

〈司会〉百五銀行取締役 吉輪康一さん(高24回)



三重県内の代表的企業グループのトップとして活躍されている岡本直之さんと今春、県副知事に就任された植田隆さん。三重のリーダー役のお二人に、三重県や故郷の伊賀、そして上野高校での思い出を語り合ってもらいました。

伊賀はええところ、もっと刺激も

司会(吉輪) 三重県の重要なポストに就かれたお二人のお立場から伊賀をどのようにご覧になっていますか。

岡本 津の方は気候も温暖で食べる物もうまいところですが、でも、どこかに案内ということになると、伊賀上野の方がいろいろある。お城があつて堀を後に上野高校の明治校舎、鍵屋の辻に糞虫庵、いいですね。「何か食べよか」と言ってもでんがくに伊賀牛などね。歴史があつていい所です。しかし、もう少し刺激を加えないといかんかなあ。

植田 私は県庁に就職して初めは伊賀から通っていたのですが、峠を越えるという難点があります。県全体では伊勢湾岸が中心になって職員も伊賀の人が少ないのは地形的に閉じられているせいでしょうか。見えにくいところがあります。

岡本 名張に近大付属高専が移転、開校したのがよかった。若い人が入ってくるのはいいことです。野球部が活躍しているのでも甲子園に出たらいつぱいに地元の名が知られる。

これからの交通とメガソーラー事業

司会 長い間近鉄におられた岡本さんは、伊賀線、いまの伊賀鉄道をどうご覧になっていますか。

岡本 三重県内の近鉄線で廃線問題があつたのは北勢線と伊賀線で、当時の上野市長さんらは赤字の大きい伊賀線は打ち切られると思つていたようです。当時の近鉄社長がお忍びでこれらの線に乗ってみたら乗客はお年寄りや高校生ばかりだった。これで電車をなくしたら「近鉄は何という会社や」と言われる。せやけど、これだけ大きな赤字を続けていたら特別背任に問われる。そこで地元の人から半分持つてくれたら周りを説得するから、という事ですね。

司会 伊賀鉄道友の会という活動ができていて、色々な企画をして電車に乗ってもらう工夫をしています。でも電車は利用客も減少しています。でも電車は

植田 名張地区の高校の統合問題も出ていますが、近大付属は伊賀の高校には刺激になったでしょう。

司会 ひとつは「伊賀は関西」と主張する活動もありました。

植田 伊賀は中部か関西かという議論がありますね。テレビのチャンネルも大阪の局、木津川も西に流れて、伊賀は関西を向いていますね。

岡本 廃藩置県するとき藤堂藩の領地というところで伊賀も伊勢もまとめたと社会科学の先生に聞いたような…。

観光、医療：課題あれこれ

司会 三重県や伊賀の課題については…

植田 三重県の財政は段々厳しくなり給料カットをしています。産業で三重を元気にするという「産業振興ビジョン」を進めていて賃金も上がるようにと。観光では伊賀は「忍者」に期待していますが…。

司会 芭蕉さんもあります。

植田 昨年の芭蕉祭には知事が来てくれました。三重県人になろうといういろいろな

なくさないでほしいです。

岡本 今はバス会社に移りましたが、やっぱり電車は本数が少なくなつても走ってないとあかん。その町の顔であり町の発展も電車の有無で違つてくると思います。いまも近鉄は伊賀鉄道を支えていますよ。

司会 バス事業でも変わってきていますか。

岡本 乗客の少ない路線の維持のため行政に支援してもらつたりコミュニティバスを走らせたりしています。また、他県の市バスの運営の委託を受けたり、自家用車の運転を引き受けたり多様化しています。



プロフィール
うえだ たかし
名古屋大学教育学部卒
1975年 三重県入庁
2002年 松阪市助役に outward
2009年 三重県総務部長
2012年 副知事



プロフィール
おかもと なおゆき
大阪市立大学工学部卒
1970年 近畿日本鉄道入社
2004年 同社取締役
2008年 同社副社長
2011年 三重交通グループホールディングス社長、三重交通・名阪近鉄バス・三交不動産各社会長

所へ足を運んで吸収しようとする意欲が強いですよ。県も「〇〇の一句」を毎年募集していますしね。

岡本 子どもの頃は俳句が夏休みの宿題やつたでしょ。僕は2回特選になつてます。小学校で「あぶら蟬羽ちぎられて子のおもちや」。これはお袋が作ったんですわ。(笑) 中学校では「表紙なき受験雑誌を読み始め」。これは季語がない、と先生が「表紙なき受験雑誌や夏期休暇」と。これで特選です。(笑)

司会 女子サッカーの「くのい」も伊賀の財産です。Jリーグの試合を呼べるサッカー場が伊賀にあれば…。

植田 33年の三重国体の開催に合わせて10年くらいかけて整備していこうとしているところですよ。

司会 地方分権の時代といわれていますが、県の中の地方分権を高めてもらつて伊賀のことは伊賀で決められるように、業を誘致して40メガワットの太陽光発電所を造ろうという案です。県の土地で民間運営の形で募集しているところですよ。

岡本 僕は三交不動産の若い課長クラスが発案ですが、伊勢市で分譲地に予定していた土地にメガソーラーを設置しようという計画が進んでいます。電気は確実に売れるので「大いにやれ、やれ」と後押ししています。ただ、発電量があまり大きいものは高圧線が必要になるので小規模なものを複数造つて何かあつたときにリスクを分散できるようにしたいといふ言つてらるんです。

という意見があります。

植田 あまりね、それが強くなる地域ごとに本庁の考えとちがうところへ行つてしまふ心配もあり、簡単ではありません。

司会 高齢化が進む中で地方の医師不足が問題です。上野の市民病院には日本でも数少ないPETという検査器械が2台あるそうです。

植田 特に伊賀は緊急医療問題が深刻ですね。

岡本 なかなか三重には医者が残らない。

楽しかった上高時代 「自彊不息」は今も

司会 岡本さんは「文藝春秋」の「同級生交歓」に上野高校の友人たちと登場されましたが、お二人の高校時代の思い出を聞かせて下さい。

岡本 「同級生交歓」は地元の副市長や弁護士、京大の副学長、元南極観測隊長など多彩な人材が集まつてね。伊賀市の観光協会会長も同年の友人で、いろんな仲間がいるのは心強い。

植田 やっぱ仕事をしっていく上でも人との繋がりはありがたい。

岡本 高校時代は楽しかったが、ふられたほろ苦い経験もあった。(笑) また、絶えず勉強せなあかん、と追われているのが辛かった。そういう時には友達に頼めてくれるという時代やつたなあ。

司会 私の同期に舞台俳優をしているのがある。皆でその芝居を見に行くんです。また高校時代に戻つたような気分です。

岡本 全校集会で校長が「いい大学へ」というような話をした後、教室で先生が「いい大学へ行くだけが人生やない」と言われたのはびっくりしたなあ。

植田 私は月ヶ瀬マラソンが印象的でした。苦しかった思い出です。

岡本 そうそう、30分くらい走つて疲れた頃に女子に出会う。それでええかつたことなあかん、というので頑張つた。(笑)

司会 冬の体育の授業はマラソンの練習でお城の周りを回りましたね。私はいつも女子に追い抜かれました。(笑)



プロフィール
よしわ こういち
同志社大卒
1977年 百五銀行入行
2006年 松阪支社長
2009年 取締役津支社長
2011年 取締役営業統括部長

い。伊賀に人間ドック専門の病院がないと言つていたら上野市民病院に検診センターができた、それがそうですか。

司会 また、昨年の3・11から防災に関心が高まっています。東海、東南海地震が起これば海岸線の長い三重県は打撃が大きいです。海辺にある三重大学も心配。だから伊賀に内陸拠点をおいてバックアップしたら、という考えもあります。

植田 昨年の大震災のとき救援の中継地となつた岩手県の遠野のように、伊賀は三重県を支えられと思っています。地域の特性を活かした対策も大切ですね。

知つてののか」と感心されましたね。実際、「自彊不息」の精神は大事です。

司会 そういう高校時代のご経験を通して今のお仕事の上で感じられることは…。

岡本 私の会社は採用試験で出身大学を伏せて面接をします。この立場になつて思うのは、どの大学を出たか、というより人間性が重要だということです。組織はいろんなタイプの人間がいてバラエティに富んでいる玉石混濁がいいんですよ。

植田 私のところでも上級、中級の区別はありますが、仕事を始めたらどこの学校かは関係ありませんね。

岡本 時々大学などで話を頼まれたときに藤沢周平の「霜の朝」という短編を紹介するんです。江戸時代の吉原で財を成した人が茶屋遊びをして小判を撒き散らす。みんなそれを我先に拾うんだけど一人の若い女だけが拾わない。「お金は働いて手に入れます」というわけです。若い人には「こつこつ額に汗して」ということを伝えたいですね。楽しんで儲けてもろくな事はありません。神さんは公平やなあと思えますね。

司会 きょうは貴重なお話をありがとうございました。

『関西人のルール』が大ヒット

イラストレーター 千秋育子さん (高35回)

今年、丸善なんばO.C.A.T店週間総合1位など関西の書店を中心に平台を賑わせた『関西人のルール』という文庫本。表紙は目を引く金色に赤色の文字で「この服、なんと500円!」「全然みえへん!」。そこに親しみのあるイラスト。思わず手にとってしまう。著者の千秋育子さんがイラストレーターとして大阪と東京を行き来する生活から遭遇した出来事が面白おかしくイラスト入りエッセイになっている。

『関西人のルール』は4年前に出した『関西人の取扱説明書』の文庫版。「B型自分の説明書」がヒットし、「取扱説明書」ブームの頃で、関西人の説明書があれば、と探していた編集者に、関西人の目線で見ると千秋さんのエッセイ(東京メトロの「メトロポリターナ」が目止まったそう)だ。

単行本は、当時数多く出版された「取扱説明書」の中でも、頭ひとつ抜き出た売上に。コミックエッセイが売れ始めていた時期でもあり、エッセイと

イラストを上手く絡めた本は手に取りやすかったのだろう。しかし、関東の人に向け、関西人との付き合い方を書いたつもりが、関西人に殊のほか受けた。内容は、千秋さんが高校の同級生など身近な人から調べた「関西人・関東人のイメージ調査」から始まり、相互コミュニケーションを上手にする方法や関西弁のここぞという使い方など具体例を豊富に盛り込み言葉を通して関西人の考え方、対処の仕方を浮かび上がらせている。

大阪では普通に使っている言葉が東京では通じなかった例を『関西弁辞典』として「あるある」という会話例も添えている。が、無意識に話している関西弁を文字にするのは大変だった。「ひんねん」と「へんねん」のニュアンスの違いや「飴ちゃん」の表記などが苦勞し、言葉の成り立ちも知ることができた。また、自分のツツで、新聞や雑誌、テレビ、ラジオで紹介してもらったり、友人に地元の本屋を紹介してもら

ユダヤ難民救出に上高OBの陰の力

『命のビザ、遙かなる旅路』 北出 明さん (高13回)

第二次世界大戦が始まって間もない1940年、リトアニアでナチス・ドイツの迫害から逃れたいユダヤ人から日本通過のビザを発給した日本領事館の領事代理、杉原千畝。行き先国への手続きを済ませた旅費のある者でなければビザ発給を禁じる外務省の訓令に背き、人道的判断をして約6千人もの命を救ったことは広く知られている。

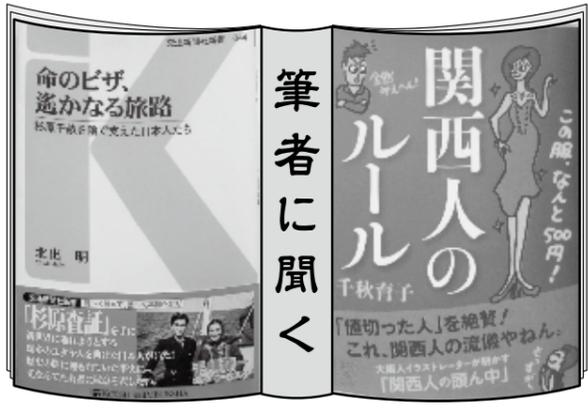
杉原の「命のビザ」を受け取ったユダヤ難民がはるばるとシベリア鉄道経由で日本に渡り、無事にアメリカなどへ逃れられた陰には多くの日本人が関わっていたことはあまり知られていない。北出明さんの『命のビザ、遙かなる旅路』(交通新聞社刊)は、独力でこの埋もれていた歴史を掘り起こした貴重な労作だ。

きっかけは「不思議な縁」だった。北出さんが勤務していた「国際観光振興会」(現・国際観光振興機構)で最初の上司だった大迫辰雄氏から、1998年になって、同氏が若い頃に「ジャパントリス・ビュロー」(現・JTB)の職員としてユダヤ難民の海上輸送(ウラジオストク・敦賀)の業務を担当していたことを聞き、記念にももらったという彼らの顔写真のアルバムも見せてもらった。かつての上司が歴史的な出来事に関わっていたことに驚き、感動した。それだけではなく、当時のジャパントリス・ビュローのトップが上野高校の前身、三重三中第1回卒の高久甚之助氏だったことを知り、母校の大先輩が関わった可能性もあると推測した北出氏の取材意欲はいよいよ燃え上がった。

らうなどの販売努力もした。書くだけではなく売り方までしっかり手を抜かないバランスの良さがうかがえる。

シンガポールでライブも

本業のイラストレーターとしては、最近では国際的な活躍が目立つ。シンガポールの脚光を浴び、日本の観光局とタイアップした「ジャパントランプ」が大きな世界一としてギネスに申請中。シンガポールでは、中心街の大通りでトランプに直接描くデモンストラションも行い、その様子がCNAで放送されNHKのニュースでも紹介された。この企画では、日本にもっと関心を持ってもらうために、忍者の格好でポーズを取ってもらうアイデアを思いつき、急遽実行。現地



筆者に聞く

日独伊三国同盟を結んだ日本で、杉原領事代理と同様にドイツに敵対する活動は危険な行爲だ。高久氏とユダヤ難民救済事業とを結びつける直接的な資料は残っていないが、米留学中にユダヤ民族の歴史を学んだであろう高久氏の人的判断がなければできなかったらうと北出氏は言う。

元難民を追って米国にも

「大迫アルバム」に残されていたユダヤ人のその後を追う取材は、写真に残された伝説、独語、ポーランド語、他の不明な文字のメッセージの解説から始まった。難民が上陸した敦賀の「人道の港 敦賀ムゼウム」では上映され



プロフィール
せんしゅう やすこ
1966年泉大津市生まれ。
【著書】『関西人の取扱説明書』(辰己出版08年)、『関西人のルール』(中継出版12年)
【海外イベント】シンガポルトランプ原画展(11年) / ケッペルベイ
【建築へのアート】コントワール・ド・ブノア、山荘無量塔(由布院)、エンジャパン(東京本社・大阪支社)、ヤクルト(兵庫)など。
【オリジナルグッズ】「うさぎいぬ」、松任谷由美コンサートグッズなど
【広告・商品パッケージ】ガルーダ・インドネシア航空ポスター、「がんばろう日本2011」ロゴなど

の受けがとて良かった。伊賀はもつと忍者で売り出すべきだという。

『関西人』にあるような明るいイラストも手掛ければ、書道の腕を活かした格調高いロゴもある。コンセプトを話し合い、イメージに合ったイラストやロゴを壁などに描いていくというも。商業店舗の他、珍しいものでは病院をペイントしたことも。また、松任谷由美の「シャングリラ」では、プロデューサーである松任谷正隆さんのイメージを聞いてショーのストーリーを書き上げたこともある。

千秋さんは大阪生まれだが小学校から高校時代まで名張で過ごした。大学受験に失敗してデザイン専門学校に入学したことからイラストレーターで成功する道が開けた。中学2年で書道



▲シンガポール「ジャパントランプ」のライブペイントをする千秋さん。(12年)

7段を取り、絵も得意だったが、専門に勉強したことがある仲間の中で、自分

もあり、出版社に持ち込むと雑誌に載るちよっとしたカットなど、小さい仕事でできた、と謙遜する。どんな仕事でも、ひとつひとつ大切にこなし、多くの人の出会いを大切にできたからこそ、仕事の幅を広げてくれたのだろう。

制作する時間よりも相手とイメージを共有するため、話し合ったり、その歴史を調べたりする時間の方が長いという。「描いてみて」と言われて知っていると、いざ描こうとすると細部が分からないことがよくある。招き猫だとか、どちらの手を上げるのか、その意味や差別的なニュアンスを含んでいないか、特定の商品が指していないかなどハードルは多い。絵として不自然になることもあり、昔はそれに反発を感じることもあったそうだが、今は相手のコンセプトに合わせることに苦にならなくなり、それが現在の幅広い活躍に繋がっているようだ。また様々な仕事をこなしているが、海外で日本アニメが高評価を得ていることを知り、そちらに行けば良かったと更なる追求心を忘れない。今後の活躍がますます楽しみです。(取材 松本ひとみ 高52回)

ていたビデオに大迫氏の姿を見つけ、当時の市民による目撃証言の情報を収集した。また、敦賀から多くの人が移動した神戸で彼らの足跡を訪ねた。

外務省の外交史料館では、乗船勤務をして、所持金のないユダヤ難民を大切に扱うべきとの見識を最初に示したJTB職員は朝鮮系の人だったことも発見。日本からアメリカへの輸送を担当した日本郵船の元乗組員からも体験談を聞いた。

そうした取材の中で、長い海外勤務の経験を持つ北出さんが本領を發揮したのがアメリカ取材だ。一昨年の9

月、敦賀と杉原の故郷、岐阜八百津町で得た「杉原サバイバー」(杉原氏が発行したビザで生き延びた人)9名の情報を持って渡米。ヒューストン、シカゴ、ボストン、ニューヨークなどを回った。「大迫アルバム」の人たちの情報は得られなかったが、彼らと同様に70年前に日本経由でアメリカへの逃避行をした人たちの「生の声」が本書に紹介されている。その中の一人は杉原夫人から贈られた短歌を家宝にしていた。

握る幼子はいたく顔汚れをり
北出さんは、知られざる歴史に新たな光を当て、緊迫した政情の中で「命のビザ」を受けたユダヤ難民の輸送に力を尽くした人たちがいたことを多くの人に知ってほしいと期待している。特に、上野高校同窓生や在校生の皆さんには、我々の先輩が現代史に残る重要な出来事でも知られざる役割を果たしたことを知っていただき、後輩としての誇りを共有したいと話している。

(取材 福田和幸 高18回)



▲杉原夫人の短歌の所有者、サミュエル・マンスキー氏(当時90歳)を訪ねた北出氏(左)。マンスキー氏は昨年6月他界。

プロフィール
きたで あきら
1944年三重県上野市(現・伊賀市)生まれ。1966年慶應義塾大学文学部仏文学科卒、国際観光振興機構(JNTO)に就職。2004年JNTO退職。その間、海外駐在はジュネーブ、ダラス、ソウル。現在はフリーランス・ライター。訳書に『ロル・ロイス』(産業能率短大出版部)、著書に『風雪の歌人』(講談社出版サービスセンター)、『争いのなき国と国なれ』(英治出版)、『韓国の観光力リスマ』(交通新聞社)、『釜山港物語』(社会評論社)

- 『釜山港物語』在韓日本人妻を
支えた崔妻大の八十年―
『命のビザ 遙かなる旅路』 北出 明 (高13回)
『伊賀盆地のトンボ』その見分け方 浅名 正昌 (高2回)
『線と色で楽しい絵描き人生』 東出 保 (中46回)
『頭がいい釣り人悪い釣り人』 松田 雅一 (高14回)
『関西人の取扱説明書』 千秋 育子 (高35回)
『関西人のルール』 千秋 育子 (高35回)
『患者の目・患者の心』その続と2冊 松井 秀鷲 (元教諭)

平成22、23年度 寄贈著書(敬称略)

学長に就任してからの一年は、創立一三〇年、再興五〇年記念事業に多忙だったという。

皇学館大学は、文明開化時に、西洋文化一辺倒になった日本の現状への危機感から明治15年に創立され、戦後の占領政策により廃学になったが、16年を経て再興された。

4月末に主要な記念行事が終わり、大学の原点を確認して新たなスタートラインに立ったと感慨を新たにしている。一貫して追求してきた独自の人間教育と研究に磨きをかけ、新たな展開を図ること。具体的には、神学界はもろろん本年度から大学院を改組した教育分野や名張学舎から移った社会福祉分野でも高度な専門知識を持ち一隅を照らす人材を送り出した、との意気込みだ。

寮生活で青春を謳歌

清水さんの上高時代の思い出といえば「寮生活」。当番制での風呂焚き、舎監の先生と入った風呂場談義、食後の卓球、朝夕食に加え学校まで弁当を届けてくれた寮母さんの姿など思い出は尽きない。中でも上野天神祭は、赤目から通ってはいは体験しえない心踊る出来事だった。まさに「青春を謳歌」することができた寮生活が、人間形成の幅を広げてくれたと懐かしむ。

皇学館大学入学後、田中卓教授の私塾での生活を選んだ理由の一つは、高校での寮生活が楽しかったから。この塾は四畳半に4人が入り、正座して日本の勉学に励んだとい

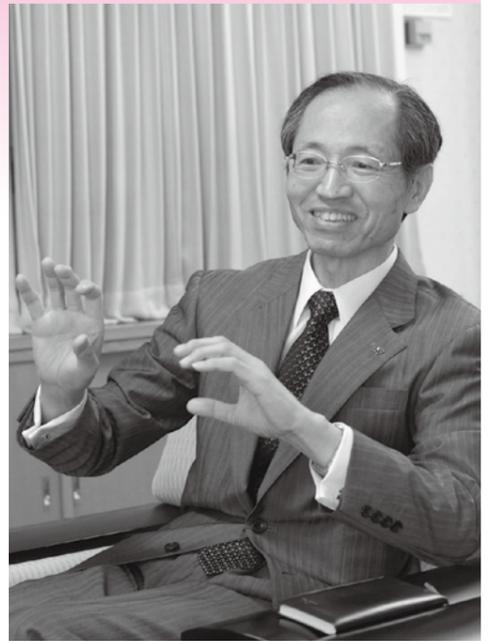
プロフィール

しみず きよし
皇学館大学大学院修了 博士(法学)
平成3年から同大教授 23年から現職
伊勢市在住



キャンパス訪問 皇学館大学

次代を担う一隅を照らす人材の育成を



学長 清水 潔さん (高18回)

日本社会が、民族性や歴史を踏まえ主体的な態度で受け入れ運用をしてきたことがわかった。これによって学問の意味や価値が分かり始め、研究がますます面白くなったという。教える立場になってからは、自分の研究成果やその周辺のみならず、通史や世界的な視野に立った見方を伝えるよう努めている。また、現代の価値観を基準にして歴史を見るのではなく、時代精神を理解し、敬虔に歴史に学ぶ姿勢が重要だと力説する。

神道精神を教育に

古代法制史を突き詰めていくと自ずと神道史や神祇史という日本の根源的な分野に向き合うようになった。が、自身は神職資格を持っていないとのこと。学生には、神道のもつ自然・生命・社会・人間の尊厳に対する畏敬の心、平和強調の精神、清浄正直の思想について具体的な歴史的事実をもって説くよう努めているという。そして、式年遷宮間近な伊勢の地で、日本人のアイデンティティを求める人たちに支持され貢献できるように、学長として尽力したいという。

日本古代の法制文化史を専攻

大学・大学院では、田中教授のもとで日本古代法制文化史の基礎的研究に励んだ。古代中国から入った「律令」を日本がどう受入れ適用させたかをテーマとして文献研究に没頭した。奈良・平安時代に、国家の基本法を解釈し、その運用を考えた学問を「明法学」という。その名門、惟宗氏が平安時代中期に著した『本朝月令』『政事要略』などに、日本的な律令の解釈学や適用が展開されていることを知る。この研究を進めるうちに、中国の法律を当時の

懐かしの先生を訪ねて ①

「新採から8年間の楽しい思い出」

松井(旧姓藤井) 香鷲 先生

「教員にとって理想的な年の取り方とはどういうものだろうか。定年退職した教え子を生徒の気分に戻すようなオーラを発し、今なおピュアな教育への情熱を語る松井先生を前にして、そんな思いにかられた。

「君らの学年の担任もしていた」とおっしゃる。筆者は3年8組、先生は3年2組の担任。文科系、理科系に分かれ、講座制で授業をしていたこともあり、8組の生徒にとって1〜4組のクラスとはほとんど交流がなく、その担任の先生も失念していた。当時の名簿をきちんと保存され、生徒一人ひとりの思い出を語られる。

当時の上野高校や生徒について：「自分が若かったからか、学園紛争の影響からか、当時の生徒は先生を先生と思わない生徒もたくさんいたな」

「そうなんだ。大学紛争が高校にも飛び火して、共産主義の社会こそ理想の社会だとか、唯物論がどうの、マルクス、エングルスがどうの伊賀の高校でも黄色いくちばしでさえすりあっていたのだ。教員も体制側の人間とみなして、不遜な応対をすることが若者のファッションだったのだ。もっとも強面の先生の前では模範的な高校生だったのだが、その時代を生徒として体験した筆者は叱られているような気がした。後年、先生の後を追って教壇に立った筆者だが、ため口で話す生徒に注意していた自分に赤面せずにはいられなかった。

それでも先生は、昭和39年4月新採で赴任し、8年間勤められた上野高校を、その伝統を感じながら、「自



▲自宅で上野時代を語られる松井先生ご夫妻

分自身は未熟だったけれど楽しかった」と語られた。山岳部の顧問をされ、主に北アルプスに登られたそう。槍ヶ岳や穂高岳、白馬にも登った。生徒と登った美しい山の風景は今も目に映る」と懐かしそう。

松井先生はその後、宇治山田、鳥羽、久居の各高校に勤められたが、上野高校では、当時、生徒のアイドルの存在だった洋子先生と運命の出会いがあった。結婚された奥様は上野から名張、津女子、松阪の各高校で勤められた。お嬢さんも教員をされていて、いまはお孫さんの世話をする毎日だそう。

先生は退職後も非常勤講師を続けられていたが、7年前に少し重い病気を患い12日間、集中治療室に入って治療を受けられた。その時のICU症候群という不思議な体験を「患者の目・患者の心」という書にまとめられた。上野高校同窓会文庫に寄贈されたが、「もし読んでくださる方があれば送りますよ」とのこと。(松阪市豊原町1142-1、電話0598-28-2228まで)

事は学校の寄宿舎で生徒と一緒だったとのこと。下宿には生徒がよく遊びに来たそう。当時の上野高校の先輩の先生方は人を寄せ付けないような雰囲気を持っていた。授業中、にやりと笑

「新採の未熟な者を温かく育てていただきありがとうございます。皆様はますますのご発展をお祈りします。元気にしていますので、機会があれば遊びに来てください」と優しくおっしゃった。(取材 番條克治 高21回)

同窓会協賛 開放講座 ご案内 「伊賀の先賢」Ⅱ

各回午後2時〜3時30分 上野高校視聴覚教室で

- 10月6日(土)「榊 莫山」(書家) 講師 毛利伊知郎さん
- 10月14日(日)「元永定正」(画家) 講師 毛利伊知郎さん
- 10月20日(土)「橋本 策」(医学者) 講師 川崎 文隆さん
- 10月27日(土)「福島俊子」(白秋の妻・歌人) 講師 奥西 勲さん
- 11月6日(土)「西田猪之輔」(歌人) 講師 北出 樞夫さん

※受講申し込みは0595・21・2550へ

ハイトピア伊賀、オープン

上野市駅前再開発事業の中心として、地上5階、地下1階（駐車場）の複合施設「ハイトピア伊賀」が4月にオープンした。場所は旧商工会議所ビルと中京銀行上野支店の跡地。北隣の「上野産業会館」に代わる建物で、一九五七年開業の同会館は七月から解体工事が始まる。

新施設は、北側が三重交通バスロータリーになり、エントランスホールの奥には中京銀行が入り、1、2階はテナントで旅行代理店、薬局、精肉店、レストラン、パン工房などの商店が並ぶ。

ふるさと伊賀なう

天神さんの拝殿再建

一昨年七月に不審火のため焼失した上野天神・菅原神社の拝殿が再建され、



んでいる。

3階は上野商工会議所のフロア。事務所の他、会議や講座向けのスペースが設けられ、コミュニティ広場ではお弁当を広げるの食事も可能。

4、5階には伊賀市役所の一部機能が入っている。4階は「保険センター」、「男女共同参画センター」、「子育て支援センター」、5階は「生涯学習センター」である。ここは従来の中央公民館に代わる機能を持ち、約250名収容のホールをはじめ大小の研修室や和室がある。展望バルコニーはギャラリーとして美術展にも活用され、全面ガラスを通して上野城天守閣を望むパノラマも楽しめる。



今年8月下旬、完成する運びとなった。

楼門を入ると、重厚な神殿造りの拝殿が現れる。一部は鉄骨を使用しているが、美しい檜造りで、向拝は唐破風造り、屋根には銅板が貼り巡らされている。高さは、以前より少し低いが、建坪は、旧拝殿より随分広く、55・5坪となっている。

大勢の観光客で賑わう秋の天神祭は、2年続けてテント張りの仮拝殿でのいだ。

再建に向けて寄付金を募った結果、多くの市民や県外在住の地元出身者などからも寄付が集まり、総工費1億2000万円で、新しい拝殿が出来上がった。

今年の上野祭は、この光り輝く拝殿が、訪れる人々を出迎えてくれる事だろう。

伊賀フットボールクラブくノ一

応援しよう

千代の国憲輝 関



将来の日本代表へ、上高卒の西野さん

日本女子サッカーがワールドカップで優勝して以来、「なでしこリーグ」が注目を集め、今年は特にオリンピックイヤーということもあって金メダルの期待を込め人気を博している。全国でたった10チームのうちの一つが我が「伊賀フットボールクラブくノ一」なのである。

1976年に創部された「伊賀上野くノ一サッカークラブ」が母体となり、1988年から約10年間プリマハムがスポンサーとなり、実業団チームとしてLリーグで何度も優勝するなど名門として数々の輝かしい歴史を有している。1999年スポンサーの撤退により、市民チームとして再スタート。下部組織には「サテライト」や「サテライトU-15」、「ジュニア」があり、地域に根ざし密着した運営活動を行っている。

現在オリンピックの関係等でリーグ戦は中休みだが、第9節まで終わり、「くノ一」は2勝4敗3引き分けの成績で、6～7位に甘んじている。チームには若い選手が多く、しかもなでしこリーグの中では群を抜いてかわいい娘ばかりが集まっている。

中でも我が上高を今春卒業したばかりで立命館大学へ進んだ西野有香選手は将来日本代表にも期待される有望株の一人である。彼女は小学校の時、サッカーに魅せられ、中1から下部組織に入団、高2でトップチームの正DF選手として頑張っている。大学の勉強の都合でしばらくはサテライトで試合をこなしているが、秋からはまたトップチームへ復帰、活躍を期待されている。

(池澤基善 高19回)

初の伊賀上野観光大使に

昨年ようやく伊賀出身の関取が誕生した。九重部屋の千代の国である。郷土の力士が登場するようになって、大相撲を見るのが楽しみである。

千代の国は若干20歳で新入幕を果たし、今年の初場所でなんと9勝を上げた。残念ながら14日目右肩を脱臼してしまい千秋楽を欠場、三賞を取り逃してしまった。

若くて、イキがよくて、イケメン力士なので、将来相撲界を背負って立つに違いないと囑望されながら、脱臼が完治せず、3月場所、5月場所と休場を余儀なくされ、7月場所では十両へ降格。

ちなみに、九重親方（元横綱千代の富士）も同じ脱臼ぐせがあり、幕内～十両の間を二往復している。

心配ない！7月場所では必ずや好成績を上げ再度幕内昇進すること間違いない。このまっ直ぐで、素直な好青年である千代の国関は今年3月に、初の伊賀上野観光大使に就任し、郷土の情報発信に一役買ってくれることとなった。

我がふるさと伊賀が生んだ偉人英傑は数多くいるが、今こんなにワクワク、ドキドキときめかせてくれる千代の国関を心から応援したい。

めざせ横綱！がんばれ千代の国憲輝！！

(池澤基善 高19回)



千代の国後援会

伊賀忍者ワシントンへ

今年は川崎克氏の憲政の盟友、三重県出身の尾崎行雄が東京市長の時に、交友のしるしとしてアメリカワシントンへ桜の木を送ったから100周年となる。



▲鈴木英敬三重県知事と米友交の象徴として、ワシントン



▲1,600人の観客を魅了

され、三重県代表として我が伊賀忍者が日本ストリートフェスティバルに4月10日から1週間参加した。本物の忍者の登場にワシントンっちは度肝を抜かれ、いろんな会場での実演パフォーマンスは拍手が鳴り止まない程の好評であった。

第14回「雪解のつどい」

3月17日は、我らが先輩、横光利一の誕生日。生誕100周年記念事業の翌年に、顕彰を継続しようと「雪解のつどい」として始めて、今年で14回目である。会場は、旧伊賀町と旧上野市で交互に開いているが、今回は上野会場で、母校上野高校の視聴覚室で開かれた。

メインの「作品鑑賞」は、病妻ものといわれる『春は馬車に乗って』。解説は濱川勝彦先生（奈良女子大名誉教授）、朗読は小澤真由美さん（高49回）。絵手紙のグループ「いろは」のメンバー制作の10メートルのイメージ絵巻を展示し、朗読に合わせて絵巻を正面スクリーンに映写して作品の流れを一層わかりやすくした。横光が随所に技巧を凝らしながら創作したこと、濱川先生が説明され、作品の価値を再認識した。また、随所に

「跳ね釣瓶の庭」オープン

横光利一が小学校時代の大半を過ごした母の郷里・柘植の野村に横光文学ゆかりの地が新たに加わった。横光母子が借家住まいをしたのが梅田竹次郎家の別棟。その跡地に竹次郎氏の孫である梅田卓さん（高1回、吹田市）が個人で横光の記念庭園を整備し、7月22日に除幕式を予定。

この庭には「跳ね釣瓶式の井戸」が残されていて、横光の作品『笑はれた子』の中にも「跳ね釣瓶」が登場する。梅田さんは横光の心に残っていたであろうこの土地を彼の足跡を伝える場所にしたとの考えから、写真、書簡、作品の一部などを8枚のステンレス板に焼き込んだ説明板も配置した。子どもたちにも郷土で育った文豪に親しみを感じ、誇りにしてもらいたいと期待している。

(福田和幸 高18回)

各回のつどい

上野中学40回



上中第40回の同窓会は毎年10月下旬に開催してきたが、第37回として平成23年10月21日に上野赤坂町「三田清」に15名が出席した。参加者の最遠方は米子市の田丸武好さんだった。卒業は128名で第1回は67名が参加した。卒業40周年の第10回には41名の参加があった。出席者のみに榊莫山の色紙を渡したので欠席者から不満が出た。毎年、横浜市から参加していた村主経孝さんが平成23年5月に亡くなっていた。21年発行の「伊賀百筆」19号に「上野城内壕にスケートリンク出現（昭和15年1月5日）水上を滑っているのが近くの上野中学生徒20名」という写真の提供者は村主経孝さん。フィギュアスケートで世界的に活躍されている村主章枝さんの祖父である。平成5年5月に編集した記念誌「隙ゆく駒」の会員紹介には108名、物

上高25周年通会の集い

この会は関西線の大河原〜加太間の汽車を利用した通学生で作られた同窓会です。昭和19年入学の我々は、軍国主義一色の報国の精神に貫かれた戦時中に教育を受けた。国防色の制服でオーバーなど禁止、ポケットは縫い合わせて手を入れることもできず、厳しい寒さに耐えながらの通学だった。女学生はモンペ姿だった。電車の乗車も男子は前の車輪、女子は後部の車輪と決められていた。昭和20年を迎えると勤労奉仕と防空壕掘りに明け暮れ、あるクラスは軍需工場に動員され、勉強は二の次だった。

20年8月終戦を迎え、軍国主義教育は一変した。新聞紙のようなザラ紙に印刷された教科書も徐々に良くなったように思う。だが、我々高校生が一番苦労したのは、通学機関だった。石炭事情の悪化で国鉄は黒煙を吐きながらのノロノロ運転、その上車輪はガタガタ、木製の座席でガラス窓は板張り、



挙句の果てに貨物列車で通学する羽目になった。芋の買い出しで満員の閑列

故者の面影に36名が顔写真入りで記載されている。現在会員は56名になっている。24年度も伊賀市で開く予定だが、会の継続について全員に聞いたところ止めるとの意見は出なかった。米寿を祝

上中昭和21年入学生同期会

青葉満る5月15日、我々旧制上野中学校昭和21年入学生・編入学生の「第12回同期会」を料亭・三田清で開催した。正午、出席予定者27名全員が揃ったところでロビーにて記念撮影をする。12時半開会。先ず物故者86名のご冥福を祈り、朋友の在りし日の面影を偲び黙祷を捧げた。

幹事代表・川端君の「再会の喜び」の挨拶の後、東京から2泊3日の日程で参加された福井君の乾杯の発声。グラスの乾杯酒は今回も澤君差入れの銘酒「参宮」を高く掲げ懇親会に入る。お互い傘寿に手の届く年齢である。体調不良の理由で出席者が年々減っていくのは寂しい限りであるが、まだまだ

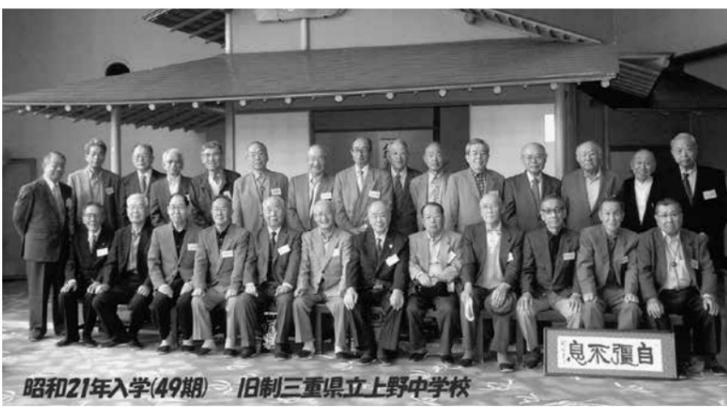
車にもまれながらの苦労を重ねた通学も、戦後男女別々の電車の乗降が自由になったことがとても嬉しかった。阿山高女の生徒を横目で眺めながら（まともに横を向いて眺めようものなら、上級生のピンタが飛んできた）の通学も過去のものとなり、男女が自由に語り合えることが無上の喜びだった。

最初、植種の福島照嘉君（故人）が発起人となり、昭和49年11月佐那具のこんにやくで開催したのが第一回目、第二回目が奈良春日ホテルでの開催、第三回目が志摩地方に宿泊を兼ねての集いとなった。以来、伊賀・赤目・大阪など回を重ねて現在に至っている。今年も、第19回目になるが4月1日上野「三田清」にて33名の参加を得て盛大に開催することが出来た。傘寿を超えた同窓生だが、「かたよらない心・こだわらない心・とらわれない心」をモットーに、この会を継続していこうとの願いでいっぱいでした。

（幹事代表・山田得治）

つてもらう歳で、参加されている人はお元気な人が多いが返信も困難な人が増している。車の送迎の都合から休日に、との希望もあった。1年でも長く続けられるよう願っている。

（幹事 出後 治）



昭和21年入学(49期) 旧制三重県立上野中学校

「上五会」再び奈良へ

隔年に開くことになっている「上五会（第5回卒）」の同年会を、今年も上野を離れて奈良で開催。上野幹事が当番のときは「奈良」とすっかり定着してしまっただ。

うらかな本場に春らしい日となった3月29日、「奈良ホテル」に集結。いつものように正面玄関での記念撮影には名古屋組が渋滞にひっかかり、開始時間に間に合わず残念。パーティでは、まず物故者への黙祷から始まった。奇しくも当日の出席者と亡くなった人の数が同数であるのも悲しいかぎりである。総勢62名、今回は年度末と重なり、多少出席に影響したようだ。いつもはるばる一番遠方（那須塩原）から

上高3回生同窓会



上野高校3期生同窓会 平成23年11月25日 奈良猿沢池52階段下

好天の11月25日、奈良・猿沢池畔へ40名が車やタクシーを連ねて集合。大正ロマンの人力車に乗って「ならまち」を散策。2人乗り10台を交代で。打ち上げパーティはお好み焼き「パルコ」を貸切り。前夜の24日「ホテル日航奈良」で一泊。参加者43名が中国料理で宴会。2時間半の間に手品の余興も披露された。カラオケ2次会や夜長の歓談を堪能した。いよいよ高齢者の年長組突入寸前です。まるで10日分をゆったり楽しんだような晩秋の2日間でした。（文責 川端巖雄）

米寿を祝う会に感謝

もう無理の効かない年齢だが、校訓「自強不息」の心意気は忘れないでいたいものだと同改めて痛感した。朝5時半起きて、川崎市から駆けつけてくれた二番手遠来の村井君に中締めをお願いし、幹事中野君の「来年の再会を楽しみに」の言葉を以て閉会。名賀・名張地区出身の皆さんに次回の幹事を託して名残りを惜しみつつ散会となった。

（幹事・中森治夫 高3回）

私は今年で八十八歳になり、かつて参加して下さる野崎正人君の乾杯の音頭で宴は始まった。春日、耳成、二上など大和ゆかりの地名が名付けられたテーブルの席は幹事長のお孫さんが決めてくれたとのこと、慣れないフランス料理に緊張したのもつかのま、すぐにテーブルを越えてわいわいがやがやがはじまった。一応料理のコースが終わった段階で中じまいをしたが、ほとんど帰る人もなく五時まで二次会と銘うって交流を続けた事であった。もうこれが最後かと覚悟していたが、再来年の次回は大阪幹事が引き受けてくださるとのこと、元気で会いましょうと再会を約して、名残を惜しみながら散会した。



（元教諭・佐々木龍宝 中38回）

（上野幹事 記）

上高普通科第12回
(昭和36年) 同窓会

平成24年4月5日、4年ぶりの同窓会を74名(女子36名男子38名)の出席のもとサンピア伊賀で開催しました。埼玉、東京、神奈川、愛知、兵庫、大阪、奈良、そして地元からの参加でした。司会は伊達君、開会の挨拶は野口君、乾杯は東京から出席の川辺(松尾)さんの音頭で会が始まりました。60代最後の会であり古希直前を祝い合いました。各人のユーモアあふれるスピーチや、近況報告、菅生君のすばらしいクラリネット演奏あり、大いに盛り上がり話に花が咲いて、あつと言う間に時間が過ぎました。締めくく



5年ごとに開いている「大集合」は昨年6月25日に、還暦を過ぎて初めての開催でした。これまで文化祭・創作劇や体育祭などの企画を実現してきましたが、今回のテーマは、「これからの生きがい探し」。第1部は、これまでの経験、キャリアを活かすことや新たに身につけた技能や知識を披露する作品展示「私の作品みてみて大発表会」と「よろず相談コーナー」。書画工芸、装飾、手芸、農産物、陶器など上野フレックスホテルの2階フロアは多数のブースで埋め尽くされました。それぞれの腕前に感心し、互いに自分も打ち込める趣味を見つけたらいいなと、100名を超える参加全員が一服を味わったお茶席はメンバーの茶道師範の指導で好評でした。(写真)

上中会 総会



から祝辞をいただき、上野高校同窓会長・左橋佳三氏からは「雪解のついで」等上高同窓会活動のお話、上高校長・土肥稔治先生からは理数科二期生を含め、国公立大への進学の結果がよかったとお話でした。また、上高教頭の森川友博先生にもご出席いただきました。新しい会長に佐賀薫氏(45回卒)が選出され、役員4名が新旧交替し、新執行部が力強くスタートしました。記念講演は介護老人保健施設「鈴の丘」施設長、白鳳クリニック理事長、医学博士 福井隆男氏(44回卒)の「老人ケアについて」。認知症特にアルツハイマーの予防、介護保険、介護認定制度、各種サービス等について、分かり易く話して頂きました。(顧問 福井紀生 中42回)

テーマ「定年後の生きがい」
高18回

り「ふるさと」や校歌の大合唱となり、お互いの健康と次回の再会を約束しながら散会となりました。残念ながら今回は不参加の方々、次回はぜひご出席をお願い致します。(文責 松原孝之)

還暦記念同窓会 (第21回)



の明治校舎を見学。メンバーの建築士が案内しました。

前月の被災地支援のための「波多野均チャリティコンサート」(前号で紹介)を成功させた上での「大集合」だったので盛会となったのは本当に嬉しい事でした。(文責 福田)



アトラクションは、上野高校ギター・マンドリン部による演奏で、上野中学校校歌につづいて「丘をこえて」等6曲のすばらしい演奏を演奏して頂きました。次回もギター・マンドリン部にお願したいとの声もありました。総会を含め上中会の活動の原点は各学年のクラス会にあるわけで、それを世話される学年幹事さんの活動協力がすべてであります。会員間の消息の把握、連絡、情報伝達等をすべて学年幹事さんをお願いしております。上野高等学校同窓会の皆様も、同窓会活動に関心をもち、学年幹事さんに協力し、活動に参加されると楽しさが一層広がり深まると思います。(顧問 福井紀生 中42回)

今回は初めて会場を伊賀の外に移して、還暦記念同窓会を開いた。6月5日、ミシユランの3つ星料亭、京都「菊の井」での参加者は奇しくも60名。遠くは佐保、横浜からも参加。紅顔の美少年だった男子も今や白頭翁。かつての「前田敦子」や「大島優子」は「おばあちゃん」と呼ばれているらしいが、青春時代に戻って楽しく、おいしい時間を過ごした。定年退職してからは、地域の活性化のためにそれぞれの得意分野を活かしながら、連携して頑張っているかと誓い合った。(番條克治)

東京支部

11月1日に総会

昨年は支部総会・懇親会の開催されない年でもあり、「江戸の芭蕉さん」を偲ぶバス旅行会を12月3日(土)に企画しました。参加者は25名でしたが、江戸の2ヶ所の芭蕉庵(関口、深川)や芭蕉さんゆかりの多くの文化史跡を見学でき、楽しい旅行会でした。毎年6月第二日曜日に開催している東京支部の新卒業生歓迎会を6月10日に開きました。左橋同窓会会長、土肥校長先生、同窓会事務局の中川先生、旧3年担当の大内先生のご出席をいただき、新卒業生9名、上級学生2名、支

京阪神支部

講演は「乱歩と伊賀」

好天に恵まれた5月27日11時より大阪天満橋の大阪キャッスルホテルにて、本部から左橋会長、新任の土肥校長(高24回)、福井事務局長を迎えて京阪神支部総会が開かれ、40名が参加しました。

会務・会計報告、役員改選等の議事のあと、歴史研究家の中相作さん(高22回)が「江戸川乱歩と伊賀」と題して講演されました。ただ、中さんが名張市在住であることから、冒頭、先日報道のあった再審問題が過去50年も続いている「名張毒ぶどう酒事件」に話が及んだため、本題の「乱歩」につい

部会員23名の賑やかな会となりました。

隔年開催の支部総会・懇親会は11月11日(日)午後2時~5時30分、八重洲富士屋ホテルで開きます。講演は「東京支部の源流を作った先人達」(仮題)と題し、百本豊嗣さん(高3回)にお話し頂きます。詳細は支部会報「伊賀の友垣」23号(10月1日発行)に掲載致します。多くの方のご出席をお願い申し上げます。(事務局 中森建夫 高14回)

東京支部新歓に参加して

東京、それは夢。東京、それは愛。人はなぜ都会に、東京に魅きつけられるのだろうか。個人的には、神田の古本屋に行くなどしているが、特に東京を意識した学級作りをしたわけではな

名古屋支部

四辻氏に「徳川美術館」を聴く

平成24年6月16日に隔年毎の総会を開催しました。左橋会長、土肥校長先生、福井先生の3名にご出席賜りました。会員の出席は直前の欠席もあり結局28名となりました。総会ではご来賓のご祝辞に引続き22年、23年度の報告、24年、25年度の計画を説明し承認されました。その後の

ではそのポイントに絞った説明となりました。「乱歩」が「先生」と呼ぶ大臣・昭和時代に活躍した伊賀出身の政治家「川崎克」との関係についてはすんなりと理解できました。今一つの伊賀国をも治めた織田・豊臣から江戸時代前期の大名「藤堂高虎」とのつながりについては、三百年もの時代の隔たりがあつて奇異に感じましたが、乱歩の先祖が藤堂家に仕えたことが発端となつたとの話など、極めて興味深く聞かせていただきました。

後半の懇親会では、互いに一年振りの再会で故郷を懐かしみながらの又とない楽しいひとときを過ごしました。(支部長 百本惇滉 高7回)

合格してから2ヶ月あまり、久々に彼らと出会えた。みな、希望に満ちた眼をしていた。一人暮らしと環境の変化で気疲れもあるが、やはり目標を達成した喜びが強く感じられた。しかし、大事なところはここからである。東京でしっかりと自立し、社会人としての自己を確立してほしい。そのためにも、今回の同窓会で多くの先輩方と出会い、お話を聴けたことは彼らにとって素晴らしい機会であつた。(旧担任代表 大内 智史)

講演では徳川美術館副館長の四辻秀紀様(高25回)に「徳川美術館の不思議」と題して美術館の発足や流れ、展示物の歴史や紹介をして頂きました。非常に興味深いお話で予定の時間では短すぎました。また、貴重な資料もお配り頂きました。

続いて全員の写真撮影を行い懇親会に移りました。福井先生に上高の現況報告をして頂き、上中43回卒の西川四郎様による乾杯のご発声で歓談が始まりました。森島貴代治様(高34回)創作の伊賀検定クイズによって母校や故郷を思い返し、ビンゴゲームの賞品が伊賀上野の懐かしい品々で大いに会場が盛り上がりました。また、コーナーには返信葉書や「伊賀百筆」、東京支部の「伊賀の友垣」等資料を並べ皆様にご覧いただきました。

この様子は整理して来年発行する「上高かわら版」第3号に掲載します。今回は上中の大先輩から平成22年卒の新会員まで幅広い年代の参加がありました。2年後の総会には同級会の集りとしても利用していただき更に多くの方々に参加を役員一同お待ちしております。

会場についてはホテル支配人の佐々木正泰様(高36回)に色々なご配慮をいただき、お礼申し上げます。(支部長 浅菜宝明 高17回)

母校の近況

4月24日にバス研修がありました。1年は長島スパーランド、2年は京都の大学見学、3年はUSJへ行きまし

第64回体育祭が6月6日晴天のもとで行われ3年4組が総合優勝しました。恒例の部活対抗リレーやフオークダンスで盛り上がりました。

創立百周年を機に始まった英国短期語学研修は今年7月15日から24日まで、26名(女子22名男子4名)が参加しました。ストラッドフォードアボンエイボンに一週間ホームステイしました。今年ロンドン五輪のため出発が終業式(18日)の前になりました。

クラブ活動で特筆すべき出来事がありました。陸上競技部の3年8組田中千明日さんが走り高跳びで県大会2位、東海大会でも自己ベストを更新し1m46で4位となり全国大会出場が決定しました。7月末から新潟県で開かれる全国大会での活躍が期待されます。弓道部も個人戦で東海大会に出場しました。

また、8月には写真部と新聞部が富山県で開催される全国高校総合文化祭に参加します。(上野高校新聞部顧問 中川 力)

理数科1期生 卒業

入学直後のオリエンテーション合宿から始まり、企業研究室訪問、京都大学吉田キャンパス訪問、サイエンスパートナーシップ参加、勉強合宿、京都大学エネルギー研究所訪問など多くの理数科独自行事に、そして授業や種々の学校行事にと意欲的に取り組み学んできた1期生が今春卒業しました。

1期生は、志・夢の実現に向けてよく努力し、三重大医学部医学科、大阪大学、名古屋大学、広島大学、大阪市立大学、大阪府立大学などの国公立大学に25名が合格、同志社大学、立命館大学、関西学院大学、関西大学など私立大学の合格は延べ65名という成果をあげました。また、今回の結果に満足せず、医学部医学科や難関といわれる大学への合格を目指して今年も努力を続ける決意をした1期生もいます。大学に進学した1期生も、さらなる高みを目指している1期生も、今後の活躍が期待されます。

また、このような先輩のうしろ姿を見てきた2期生も、先輩の成果に追いつき追い越せるようにと、勉学はもちろん種々の活動に意欲的に取り組んでいます。(主任・川上 晃)

平成22年度(平成22年9月1日~平成23年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Summary of financial results for FY2010.

平成23年度(平成23年9月1日~平成24年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 前年度決算額, 対比. Summary of financial results for FY2011.

平成22年度(平成23年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支予算書

Table with 4 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 対比. Budget for the special accounting system.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Detailed financial results for FY2010.

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 前年度決算額, 対比. Detailed financial results for FY2011.

平成24年度(2012年) 総会のご案内

とき 10月13日(土)
■14:00~ 記念講演 ■15:00~ 総会 ■16:00~ 懇親会(会費3,000円)

ところ 上野フレックスホテル
伊賀市平野中川原544-2 ☎0595-21-3111

記念講演(一般公開)

講師 立教大学文学部教授 沖森卓也さん(高22回)

演題 「漢字で日本語を書き記すということ」

プロフィール

東京大学文学部国語国文学科卒。同大学院修士課程修了後、東京大学文学部助手。白百合女子大学文学部専任講師、同助教授、1985年立教大学文学部助教授、90年から現職。博士(文学 東京大学)。著書に『日本古代の表記と文体』『日本語の誕生-古代の文字と表記-』『はじめて読む日本語の歴史』『日本の漢字一六〇〇年の歴史』など。

懇親会アトラクション

上野高校吹奏楽部OB有志によるビッグバンド演奏

総会報告

平成23年度の総会が、去る10月15日出席者約160名を迎えて上野フレックスホテルにおいて開催され、前月に行われた役員会・理事会の議案が原案通り承認されました。総会に先だつ記念講演会では倉阪秀史さん(上高33回)、千葉大学法経学部総合政策学科教授が「震災後のエネルギー供給―再

会費納入のお願い

会員の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本同窓会へのご承知の通り、非常に活発な活動を行っております。

- ・ 同窓会報「白亜」の発行
・ ホームページの運営
・ 一般公開講座(明治校舎で学ぶ「ふるさと伊賀 再発見」)
・ 「雪解のついで」の後援
・ 百周年記念施設の維持管理
・ 東京、名古屋、京阪神支部への支援
・ 上中会、くればは会、扇の芝会への支援
・ 各学年同窓会への支援
・ 上野高校への支援
・ 同窓会名簿の管理
・ 総会の開催

H A Q U A ホールの管理(予定)

このような同窓会活動は、全会員にお願いしております。卒業生による新入会員の入会金により運営されています。会費納入に関しまして、以前は約2800名の会員のご協力を得られていたましたが、近年、ご協力いただいている会員は2200名余となっております。また、上野高校のクラス減にともない現2年生の卒業以降は入会金も減少いたします。上野高等学校同窓会の経済基盤を強固なものにし、母校への支援、会員への情報サービスの充実、更なる発展のために、今年度も年会費(一口2千円)の納入につきまして、会員皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

「宛名不明会員解消」にご協力を

上野高校同窓会は4万2000名以上の会員により構成されており、会員情報の正確な把握と情報管理は同窓会活動の根幹であると考えています。しかし、年月の経過にともない、転居・ご逝去等により、住所等の情報が同窓会事務局で把握できなくなっているケースが出てきております。

ご住所等が事務局で把握できなくなっている会員の方には「白亜」をお届けできません。(学年同窓会開催案内状の宛名情報も幹事様に提供できなくなっています)。このような方について、ご本人あるいはご家族、ご友人の方から同窓会事務局までご連絡をお願いいたします。また、ご逝去された場合も、同様にお願ひ申し上げます。ご友人から連絡をいただいた場合は、ご本人(ご家族)に確認の上、情報を管理させていただきます。

この取り組みは、会員の基礎情報正確化のためであって、お知らせいただいた情報をご本人(ご家族)の了解なく「同窓会名簿」に掲載することはありません。ご協力をよろしくお願いいたします。

「集い」のあった学年

(6・7面に寄稿のあった回以外)

- 平成23年
○ 上中49回 5月16日
○ 幾久友会(阿19年入) 5月27日
○ 高4回 6月5~6日
○ 高8回 6月16日
○ 高9回 8月26~27日
○ 上中44・45回 11月3~4日
○ 上中・阿山19年入学 11月5日
平成24年
○ 高29回 1月2日
○ 高27回 1月3日
○ 中46回 4月6日
※幹事さんから事務局へご報告のあった学年に郵送費の補助を致します。報告原稿を600字以内でお寄せ下さい。